

## 株主メモ

■決算期	3月31日
■定時株主総会	6月開催
■基準日	定時株主総会・期末配当 3月31日 中間配当 9月30日 その他必要あるときは、予め公告して定めます。
■単元株式数	1,000株
■株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
■同事務取扱場所	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
■取次所および お問合せ先	みずほ信託銀行株式会社 全国各支店 みずほインベスターズ証券株式会社 本店および全国各支店（各プラネットブースを除く） ※株式関係のお手続き用紙のご請求は、次のみずほ信託銀行の電話およびインターネットでも24時間承っております。 ・電話 0120-288-324（フリーダイヤル） ・インターネット <a href="http://www.mizuho-tb.co.jp/daikou/">http://www.mizuho-tb.co.jp/daikou/</a>
■公告方法	電子公告 ※当社ホームページをご覧ください。 <a href="http://www.yodoko.co.jp/">http://www.yodoko.co.jp/</a>

スチール! & アイデア!  
ヨドコウ

〒541-0054 大阪市中央区南本町四丁目1番1号  
TEL. (06) 6245-1111 (大代表)  
<http://www.yodoko.co.jp/>

### 単元未満株式買取請求および買増請求

単元未満株式（1株から999株の株式）の買取請求および買増請求は、上記の事務取扱場所・取次所において受付けております。なお、買増請求につきましては3月31日および9月30日のそれぞれ12営業日前から当該日までの期間お取扱いを停止いたします。その他、会社が定める一定期間買増請求のお取扱いを停止する場合がございます。

### 配当金受領方法のお知らせ

当社配当金の受領方法は次のいずれかをご利用いただけます。

- (1) 郵便振替支払通知書による受領
- (2) 郵便貯金口座自動受取りによる受領
- (3) 銀行預金口座自動受取りによる受領

※郵便振替支払通知書でお受取りの株主様には、より安全・確実な預貯金口座自動受取りによる受領方法のご利用をおすすめいたします。

※受領方法の変更を希望される株主様は、上記の事務取扱場所・取次所までお問い合わせください。

# 第108期 中間事業のご報告

[平成18年4月1日～平成18年9月30日]

Steel sheet / Building material / Roll / Grating  
YODOGAWA STEEL WORKS

株式会社 淀川製鋼所

証券コード5451

## 連結決算ハイライト ○平成18年度上半期の営業概況について

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。当社の第108期中間期(平成18年4月1日から平成18年9月30日まで)が終了いたしましたので、営業の概況につきましてご報告申し上げます。



代表取締役会長

鈴木鐸志

代表取締役社長

國保善次

当中間期におけるわが国経済は、企業部門の好調さに支えられ、設備投資意欲の高まりや雇用・所得環境の改善を背景に個人消費も底堅く推移し、景気拡大の裾野が企業から家計へ、製造業から非製造業へと広がりを見せ、国内経済の安定性は高まってきております。鉄鋼業界におきましては、国内外で好調に推移する鋼材需要に高炉メーカーを中心にフル稼働で対応し、当上半期の粗鋼生産量は上半期としては過去3番目の高水準を達成しました。

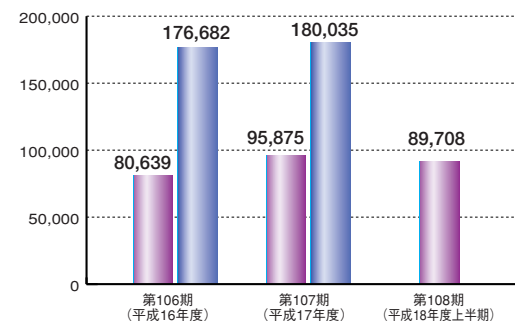
このような状況の中にあって、表面処理鋼板メーカーである当社では、減産による在庫調整から脱却すべく販売政策に重点を置き需要の掘り起こしに注力いたしました。また、流通在庫の過剰感も6月末で解消し、7月以降は市場の荷動きは堅調になり市況も上向き始めましたが、高騰が続く亜鉛価格が前年同期に比べ2.5倍となる暴騰相場を示しました。一方、台湾のセンユースチール社でも、第2四半期になって急速に市況が回復に向かいましたが、亜鉛等の国際価格の上昇が大きな利益圧迫要因となりました。当中間期の連結業績としましては、売上高は897億08百万円(前年同期比6.4%減)、利益面では、営業利益が56億40百万円(同42.4%減)、経常利益が70億24百万円(同32.7%減)、中間純利益が30億51百万円(同50.3%増)となりました。

なお、当中間配当金は、当期の当社予想利益水準及び前期配当金実績を勘案しまして、1株当たり5円とし、12月1日よりお支払いすることといたします。

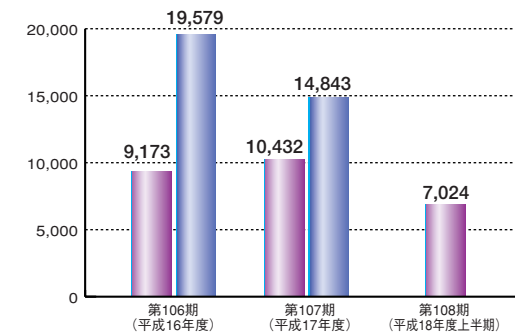
株主の皆様には、今後とも一層のご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

## ◇ 連結業績の推移

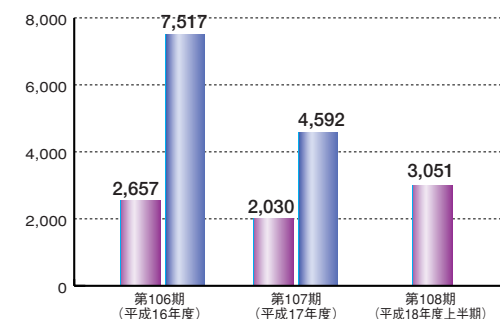
売上高 (百万円)



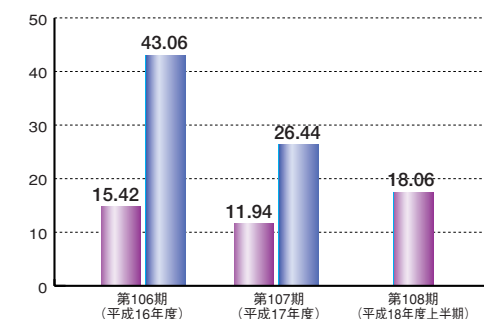
経常利益 (百万円)



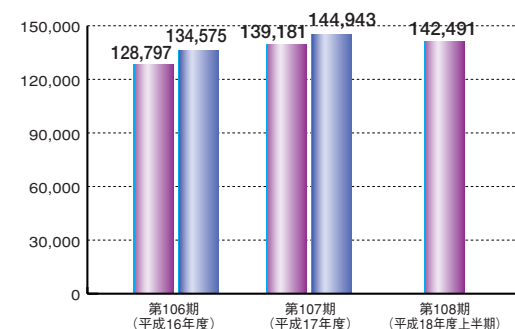
当期純利益 (百万円)



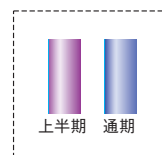
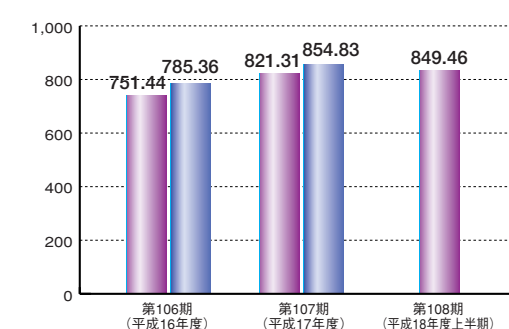
1株当たりの当期純利益 (円)



自己資本 (百万円)



1株当たりの自己資本 (円)







# President Message

◆社長メッセージ◆

全体最適という考え方の下、  
ヨドコウグループの  
ポテンシャルを  
さらに発揮していきます。

代表取締役社長 國保 善次

## ●現在の鉄鋼業界を取りまく状況

景気回復は順調に継続しているが、  
市況のブレが大きい局面

中国を中心とした東アジアの急速な経済発展はなお継続しており、またこうした外需に牽引される形でわが国の経済も着実に景気回復しつつあります。「産業のコメ」を供給する鉄鋼業界では、車、家電、産業機械、建設機械をはじめ、あらゆる分野から鋼材需要が増加しており、今後5年間はさらに需要が高まっていくという見通しが一般的となっています。

ただし、中国の鉄鋼生産急増による需給のアンバランスなど不安定な部分が多いのも事実です。例えば2004年度に世界市場が鉄不足となった反動で、翌年度には仮需がふくらみ、供給過多を引き起こし、一転して多くの企業が増え過ぎた在庫の調整に追われました。また供給不足の際に鋼材価格が高騰したため、買いたい人が買い控えるという現象が起き、これも在庫を増やす要因となりました。好況ではあるものの、市況のブレが非常に大きい局面と言えるでしょう。

## ●当上半期の当社の業績

迅速な在庫調整で、  
強い企業体質づくりは進んでいる

近年堅調に業績を回復しております当社でも、当上半期はこの市況の変化にともなって増えた在庫の調整を行ったため、一時的に経常利益がダウンしています。特に好調に利益を計上した前年同期と比較すると落差が大きく見えますが、実際は想定していた範囲内で比較的負担なく着地できた格好です。なかでも、エクステリア商品は同業他社が落ち込む中で続けて売上を伸ばしていますし、技術の独自性が高いロール部門では、厚板用ロールは産業機

械や造船向けの厚板需要の増加を受けて順調な伸びを見せています。亜鉛などの国際価格の高騰はありますが、私たちの描くビジョン「成長への回帰」は滞りなく進みつつあると言えるでしょう。

## ●「成長への回帰」の具体的戦略

ヨドコウグループを俯瞰して考え、  
シナジー効果で企業価値を高める

基本的な方針としては、セクションごと、商品ごとで考えるのではなく、「全体最適」という考え方の下、シナジー効果により企業価値を上げていく取り組みを中心に進めています。



壁材「フレッシュモダン」施工例

具体的にご説明しますと、まず第一には開発体制の強化が挙げられます。これまではエクステリア商品の開発ならエクステリアの営業、開発、生産の各担当者だけが集まって行っていたため、他部門で持っているシーズ（新技術・材料・サービス）を活用する

発想が生まれにくく、そこで私たちは「融合化委員会」を設立。これはセクションを超えた担当者が集まり、ノウハウを共有しながら課題解決を考える組織です。より質が高い商品をタイムリーに提供していくために、効果を発揮したいと考えています。

また、このような体制から「オンリーワン商品」を生み出していくことは重要な課題。例えば既存の「スーパーバリアカラー」という鋼板商品は使い続けても雨筋の汚れなどが付きにくく、汚れがついても水拭きすればサツときれいになるという優れた防汚・耐食機能で市場を席巻しましたが、このような革新型商品を新たな市場へ

どんどん提供していくことをめざしています。

第二に、営業拠点の活用について見直しました。当社では建材・エクステリア商品の販売を行うために全国に19の営業所を展開していますが、このような拠点をもち、最終消費者にアプローチできるのは同業他社にない強みの一つ。これを、グレーチングなど他事業の販売網としてもさらなる活用ができるように組織体系を再編成しました。現在はまだシステムが変わったばかりで十分に機能していませんが、徐々に機動力を生かした営業展開が可能になり、効果が現れてくると考えています。

第三は、商品の高付加価値化。当社は鉄鋼の中でも表面処理鋼板という付加価値の高い領域を手掛けていますが、全体の企業力を高めていくためにこの強みにさらに磨きをかけていきます。

例えば表面処理鋼板の専門メーカーとして唯一PCM（高級鋼板）を扱っていることは当社が今後ますます強化したい特色。このPCMを、冷蔵庫、エアコン、電子レンジなどの家電メーカーに供給しており、また今後さらに需要が見込まれるプラズマディスプレイのバックパネル用にも採用されました。この領域にさらに注力すると共に、新分野への用途開拓をすることで、同業他社にないビジネスチャンスを獲得していくことを狙います。



カラー鋼板の塗装ライン



白物家電への用途展開



この方針は、企業体質を強める上でも重要な意味があります。日本の消費者や家電メーカーが求める水準は、世界一と言って良いほど高く、その需要家が満足するものを供給していくためには、想像を超える品質の提示や、日々変わるニーズに素早く対応することなど、ハイレベルな技術力や対応力が求められます。ここで試行錯誤しながら得たモノづくりのノウハウは、きっとヨドコウグループ全体の資産になると考えています。

第四は、ノウハウの高度化です。例えば当社では関西国際空港や神戸ウイングスタジアム、埼玉アリーナなどの大型建造物の屋根・壁について、材料の供給だけでなく、施工から請け負っています。「ヨドコウは素材からやっているから信頼できる」と製造から販売・施工までの一貫体制に安心感を感じ、お任せいただけるケースが多く、その信頼をより確かなものにしていくために、板金など現在は外部に頼っているノウハウも自社の力として吸収していきたい。そこからトータルで考え、顧客ニーズに応じた最適案が生まれていくと思います。

●「グローバル市場」への展開

センユースチール社をはじめ、成長を続ける子会社が不安定な局面を乗り切るカギに

台湾の連結子会社センユースチール社を通して、中国やアメリカなど世界各地に商品を提供しています。日本でご存じの方は少ないかと思いますが、海外市場ではすでに淀川製鋼所ではなく、センユースチール社が当社の顔



センユースチール社

となるまでに成長しており、またマレーシアのPSP社、タイのPPT社の非連結子会社2社についても着実に力を付けており、これからの展

開が楽しみです。海外子会社は高付加価値のPCMを海外の顧客に提供する役割、工場・施設などが急速に増え続けるアジア地域で建材・エクステリア事業を進めていく役割、そして中国をはじめ世界各地の市況をキャッチするアンテナの役割を果たしていきます。また、当上期の見通しで予想以上にマイナス幅を小さくできたのは、海外子会社との相互補完で、さまざまな局面に柔軟に対応できたことと、ここを拠点に輸出を伸ばせたことにあります。これからの不安定な局面を乗り切る上で、海外子会社の存在はますます大きくなると考えています。

●来期に向けての決意、方針

ビジョンに基づき、一人ひとりが  
チャレンジスピリッツを発揮できる体質へ

アメリカの景気は今後どのように動くのか。輸出国に転じた中国とわが国の関係はどのように変化していくのか。冒頭にも述べましたが、現在の世界経済は上り調子と言えど、実に先行きを見通しにくい様相です。当社の歴代トップは大手鉄鋼メーカーとの経営戦略の違いについて『巨艦ではなく高性能な駆逐艦であれ』と説いてきましたが、このような市場の変化が激しい時代にこそ、小回りの利く企業規模と社風を武器として、ヨドコウグループなりの活躍の場を示すとともに、「成長への回帰」のビジョンに基づき、社員一人ひとりがチャレンジスピリッツを発揮して、さらなる成長と株主価値の最大化に努めていきたいと考えています。



プラズマテレビ用商材としてカラー鋼板の販路拡大  
環境配慮型商品も充実し、注目度が高まる

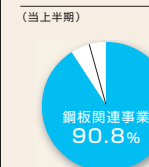
鋼板業務

昨年下半年より続く、国内の在庫調整、安値輸入品の増加および亜鉛の高騰による大幅なコストアップという悪条件で始まった当上期も、7月頃よりアメリカを中心に世界の鉄鋼需給が引き締まり、国際価格も上昇に転じました。ただ亜鉛の高騰は未だ止まる所を知らず、現在も上昇が続いており、収益圧迫の要因となっています。製品価格の是正に努めましたが亜鉛高騰のスピードが速すぎるため、十分にその成果を得ることができませんでした。しかし、需要面で国内では遅れていた建築需要も本格回復を見せると同時に家電需要も拡大しました。カラー鋼板の販売では、今後大幅な需要増大が望めるプラズマテレビのバックパネル用商材として納入が始まり、また「スーパーバリアカラー」は住宅設備のエコ給湯器向けで多くのユーザーに採用されたことにより販売量の拡大に結び付けました。今後も、新商品の開発による商品の差別化、高級化を推し進めて収益向上に努めます。

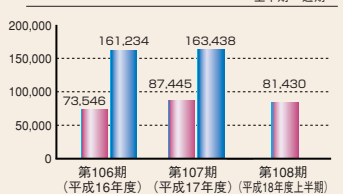
主な製品

冷延鋼板、磨帯鋼、カラー鋼板、ガルバリウム鋼板ほかの表面処理鋼板、建築材料（屋根材、壁材など）、建設工事の設計および施工、エクステリア商品（物置、ガレージ、カーポートなど）、景観商品（シェルター、ゴミ収集庫、玄米冷蔵庫など）

売上高構成比



売上高推移



建材業務

建材商品において主力の屋根材ヨドルーフは原材料価格の高騰や販売価格の下落など厳しい環境ではありましたが、上期後半からは旺盛な民間設備投資による大型物件が受注に結び付き、売上高に大きく貢献しました。壁材では鋼板塗装技術を活かしメタリック調のストライプ鋼板を採用した壁材「フレッシュモダン」を新発売して好評を得ております。また、省エネルギー対策商品の太陽電池一体型屋根や屋上緑化等は屋根・壁材の総合メーカーとしての強みを活かして、引き続き拡販に努めます。エクステリア商品は、原材料価格の高騰により同業他社が価格改定した中、当社は更なるコスト削減に取り組むことで販売価格の据え置きを行い、業界全体が伸び悩む中、物置・ガレージの売上高は順調に推移、コア商品の物置「エルモ」は二桁の伸びを示し、鋼製物置業界での販売シェアアップに結び付けました。オートバイ収納をテーマとしてオートバイ雑誌「モト・メンテナンス」とのタイアップによる特集記事の掲載など、新規販売方法の提案にチャレンジしました。工事関連は、「安心・安全施工」を基本方針に掲げ、「信頼された工事力」の確立に注力しました。建材部門として、品質マネジメントシステム (ISO9001) を19営業所含めて認証取得、経営者の「思い」が各組織に行き渡る仕組の運営に努めます。



太陽電池一体型屋根



屋上緑化



オートバイ収納 エルモ「ビット」



## ロール部門は順調に成長 独自の設備・ノウハウを生かした展開を推進

### ロール業務

鉄鋼業界向けの中型鉄鋼用ロールは、鉄鋼メーカーの減産の影響により減収、一方の大型鉄鋼用ロールは国内の厚板生産が依然高水準で厚板ワークロールへの需要も旺盛であり、また中国・韓国の厚板生産も高水準であることから増収となり、鉄鋼業界向け合計では前年同期比で増収となりました。製紙業界向けでは、合理化・品質向上に対する設備投資が活発化しており、それに伴う中型設備の出荷があったものの、大型設備の出荷があった前年同期比では減収となりました。



ロール製造中

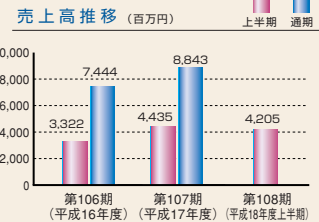
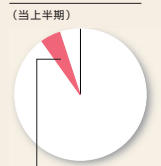


製紙用ロール

### 主な製品

鉄鋼用ロール、製紙用ロールなど、  
グレーチング

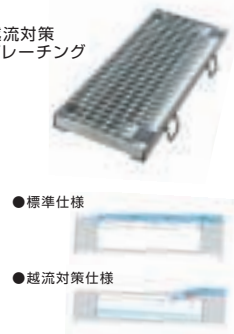
### 売上高構成比



### グレーチング業務

公共事業の縮減が続いており、その依存度が高い当業務にコスト面から主要副原料の垂鉛高騰の追い打ちも加わり、たいへん厳しい営業環境でありました。その中で、機能を重視した新商品の発売から1年が経過し、特に越流対策グレーチングが好評であり、官公庁に於いて採用実績も順調に推移しており、引き続き拡販に努めます。

越流対策  
グレーチング



投雪溝用グレーチング  
「かるがるグレーチング」

### その他事業

当上半期連結売上高40億72百万円

その他事業のエンジニアリング業務につきましては、国内外で納入済電気設備の新型機種への更新工事や、国内では鋼板加工設備の納入をそれぞれ行いました。また、ビル等の賃貸収入は若干減少しましたが、不動産販売の大幅な増加は売上高に大きく貢献しました。

# TOPICS

オンリーワンを生む最前線へ

## 現場から発想する開発へ、さらに前進。 開発担当者の積雪・台風地域滞在調査

オンリーワン商品の開発を命題とする当社では、他社と異なる開発体制を確立。毎年、担当者を積雪・台風地域に調査派遣していることも、その一つの例です。ここではそのユニークな取り組みについて、開発マンたちに語ってもらいました。



開発グループ  
グループリーダー・課長  
河本 善博



エクステリア  
開発チーム係長  
仙頭 知行



エクステリア  
開発チーム主任  
安盛 正人

**河本** 当社のエクステリア部門では徹底して「現場から発想する」ことを重視しており、その結果として他にはない商品が生み出されています。というのも、代理店様・販売店様から寄せられるご要望・ご提案は商品の改良にはたいへん重要ですが、それだけではまったく新しいモノはなかなか生み出すことができないからです。現場に隠れているニーズを掘り起こすことが大切だと考えています。

そこで私たちはこれまでも、実際に当社の物置をお使いになっているお客様にお集まりいただき、グループインタビューで使用実感を語ってもらう場を定期的に設けてきました。「物置を利用する人は、多くの場合、手がふさがっている」という気づきから、肘などで開けられる大きな取っ手を備えた物置「エルモ」が生まれたのも、また「大きなモノを仕舞うときに不便に感じている」という声から、開口部を大きくとれる3枚扉の「エスモ」が誕生したのも、現場に耳を傾けた成果です。

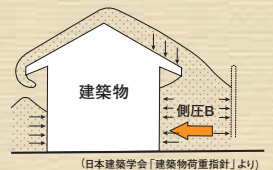
そして現在はその考え方をさらに進め、開発担当者が実際に地方に駐在することで、地域の特性を深く知り、その

環境に合わせた商品を開発していこうというプロジェクトが進んでいます。

**仙頭** 私は昨年一年半の間、仙台の営業所に駐在し、積雪地域の状況を調べたのですが、雪で押しつぶされた物置をいくつも目の当たりにしました。理論上は十分な強度を備えているはずでも、実際は予想外の方向から力がかかることもあり、その荷重に設計が耐えられないんですね。まだまだ調査が必要なことを痛感しました。

**安盛** 私は福岡営業所に駐在し、強風地域の現状を調べました。台風の予報が出ると沖縄に飛び、最も強い風の中で調査を行うのは困難でしたが、発見も多かったですね。例えば、強風地域の方は物置が倒れないように、ワイヤーなどで固定するなど置き方を工夫されているところが多いのですが、これを私たちメーカーがどうサポートしていけるか、考えてみたいと思っています。

**河本** 彼らの調査をベースに、今年は別の開発担当者が同じ地域を調べています。いまはまだリサーチの段階ですが、数年後ここで得た気づきから、ニーズを捉えたどんな商品が生まれていくのか、ご期待ください。



雪が積もると、上からだけでなく、側面から物置に力がかかることもある。現場で目の当たりにしなければ、気づきにくい状況の一つ。



# ◆ 連結決算の概要

## 貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	当中間期 平成18年9月30日	前 期 平成18年3月31日	科 目	当中間期 平成18年9月30日	前 期 平成18年3月31日
<b>【資産の部】</b>			<b>【負債の部】</b>		
流動資産	95,309	90,560	流動負債	30,867	25,953
現金及び預金	12,607	13,092	支払手形及び買掛金	18,175	15,402
受取手形及び売掛金	42,116	38,008	短期借入金	2,280	—
有価証券	1,219	1,263	その他	10,411	10,550
棚卸資産	31,742	31,196	固定負債	21,811	23,413
その他	7,969	7,225	退職給付引当金	7,640	7,516
貸倒引当金	△345	△226	役員退職引当金	67	107
固定資産	114,746	118,356	その他	14,102	15,789
有形固定資産	63,552	64,239	負債合計	52,679	49,366
建物及び構築物	19,452	19,737	<b>【少数株主持分】</b>	—	14,606
機械装置及び運搬具	20,728	20,345			
土地	20,876	20,907	<b>【資本の部】</b>		
その他	2,495	3,248	資本金	—	23,220
無形固定資産	436	436	資本剰余金	—	23,740
投資その他の資産	50,756	53,680	利益剰余金	—	86,843
投資有価証券	48,422	51,360	土地再評価差額金	—	302
その他	2,406	2,380	その他有価証券評価差額金	—	17,744
貸倒引当金	△71	△60	為替換算調整勘定	—	△1,315
			自己株式	—	△5,591
			資本合計	—	144,943
			負債、少数株主持分及び資本合計	—	208,917
			<b>【純資産の部】</b>		
			株主資本	128,933	—
			資本金	23,220	—
			資本剰余金	23,546	—
			利益剰余金	88,284	—
			自己株式	△6,118	—
			評価・換算差額等	13,558	—
			その他有価証券評価差額金	14,777	—
			土地再評価差額金	265	—
			為替換算調整勘定	△1,484	—
			新株予約権	25	—
			少数株主持分	14,859	—
			純資産合計	157,376	—
資産合計	210,055	208,917	負債及び純資産合計	210,055	—

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 損益計算書

(単位：百万円)

科 目	当中間期 平成18年4月1日から 平成18年9月30日まで	前中間期 平成17年4月1日から 平成17年9月30日まで
売上高	89,708	95,875
売上原価	75,823	77,912
売上総利益	13,885	17,962
販売費及び一般管理費	8,244	8,162
営業利益	5,640	9,799
営業外収益	1,588	827
営業外費用	204	194
経常利益	7,024	10,432
特別利益	18	39
特別損失	202	3,451
税金等調整前中間純利益	6,841	7,020
法人税、住民税及び事業税	2,196	4,392
法人税等調整額	544	△591
少数株主利益	1,048	1,188
中間純利益	3,051	2,030

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

## キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	当中間期 平成18年4月1日から 平成18年9月30日まで	前中間期 平成17年4月1日から 平成17年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,848	1,245
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,920	△3,228
財務活動によるキャッシュ・フロー	△339	△4,721
現金及び現金同等物に係る換算差額	△8	180
現金及び現金同等物の減少額	△1,419	△6,524
現金及び現金同等物の期首残高	16,186	20,362
現金及び現金同等物の中間期末残高	14,766	13,837

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 株主資本等変動計算書

平成18年4月1日～平成18年9月30日

(単位：百万円)

科 目	株主資本				評価・換算差額等				新株 予約権	少数株主 持分	純資産 合計	
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己 株式	株主資本 合計	その他有価証券 評価差額金	土地再評価 差額金	為替換算 調整勘定				評価・換算 差額等合計
平成18年3月31日残高	23,220	23,740	86,843	△5,591	128,212	17,744	302	△1,315	16,731	—	14,606	159,550
中間連結会計期間中の変動額												
剰余金の配当			△1,509		△1,509							△1,509
利益処分による役員賞与金等			△99		△99							△99
中間純利益			3,051		3,051							3,051
自己株式の取得				△528	△528							△528
自己株式の処分		△193		1	△191							△191
株主資本以外の項目の中間連結 会計期間中の変動額(純額)						△2,966	△37	△168	△3,173	25	252	△2,895
中間連結会計期間中の変動額合計		△193	1,441	△526	721	△2,966	△37	△168	△3,173	25	252	△2,174
平成18年9月30日残高	23,220	23,546	88,284	△6,118	128,933	14,777	265	△1,484	13,558	25	14,859	157,376

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。



## ◇ 決算の概要

科目	当中間期 平成18年9月30日	前 期 平成18年3月31日	科目	当中間期 平成18年9月30日	前 期 平成18年3月31日
<b>【資産の部】</b>			<b>【負債の部】</b>		
流動資産	<b>75,901</b>	77,161	流動負債	<b>22,090</b>	20,399
現金及び預金	<b>8,469</b>	10,175	支払手形及び買掛金	<b>14,146</b>	12,593
受取手形及び売掛金	<b>35,510</b>	32,914	その他	<b>7,944</b>	7,805
有価証券	<b>999</b>	793	固定負債	<b>13,532</b>	13,706
棚卸資産	<b>22,688</b>	23,055	退職給付引当金	<b>4,999</b>	4,963
その他	<b>8,237</b>	10,224	その他	<b>8,533</b>	8,742
貸倒引当金	<b>△2</b>	△2	負債合計	<b>35,623</b>	34,105
固定資産	<b>94,230</b>	97,559	<b>【資本の部】</b>		
有形固定資産	<b>33,835</b>	34,217	資本金	—	23,220
建物及び構築物	<b>12,835</b>	13,228	資本剰余金	—	23,498
機械装置及び運搬具	<b>10,267</b>	10,587	利益剰余金	—	80,607
土地	<b>9,194</b>	9,194	その他有価証券評価差額金	—	17,495
その他	<b>1,538</b>	1,207	自己株式	—	△4,207
無形固定資産	<b>246</b>	246	資本合計	—	140,615
投資その他の資産	<b>60,147</b>	63,095	負債及び資本合計	—	174,720
投資有価証券	<b>43,386</b>	46,428	<b>【純資産の部】</b>		
関係会社株式	<b>15,599</b>	15,599	株主資本	<b>119,911</b>	—
その他	<b>1,161</b>	1,068	資本金	<b>23,220</b>	—
貸倒引当金	<b>△0</b>	△1	資本剰余金	<b>23,498</b>	—
			利益剰余金	<b>80,610</b>	—
			自己株式	<b>△7,417</b>	—
			評価・換算差額等	<b>14,571</b>	—
			その他有価証券評価差額金	<b>14,571</b>	—
			新株予約権	<b>25</b>	—
			純資産合計	<b>134,508</b>	—
資産合計	<b>170,132</b>	174,720	負債及び純資産合計	<b>170,132</b>	—

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 損益計算書 (単位：百万円)

科目	当中間期 平成18年4月1日から 平成18年9月30日まで	前中間期 平成17年4月1日から 平成17年9月30日まで
売上高	<b>55,148</b>	57,664
売上原価	<b>45,991</b>	44,777
売上総利益	<b>9,156</b>	12,886
販売費及び一般管理費	<b>6,319</b>	6,479
営業利益	<b>2,837</b>	6,406
営業外収益	<b>2,505</b>	3,087
営業外費用	<b>113</b>	122
経常利益	<b>5,229</b>	9,371
特別利益	<b>1</b>	13
特別損失	<b>134</b>	3,912
税引前中間純利益	<b>5,096</b>	5,473
法人税、住民税及び事業税	<b>1,606</b>	3,280
法人税等調整額	<b>1,863</b>	△1,549
中間純利益	<b>1,626</b>	3,742
前期繰越利益	—	6,304
中間未処分利益	—	10,046

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

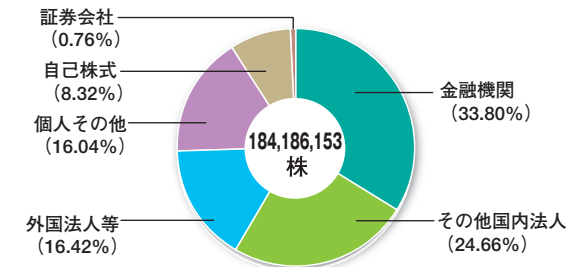
## ◇ 株式の概要 [平成18年9月30日現在]

株式の状況	
発行する株式の総数	753,814,067株
発行済株式の総数	184,186,153株
株主数	10,654名

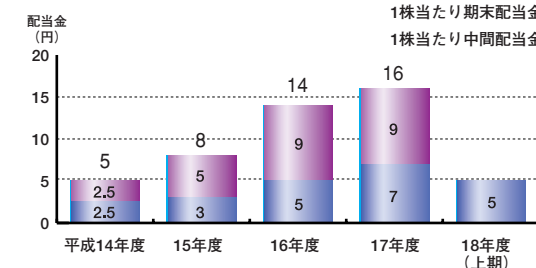
大株主 (上位7名)		
株主名	持株数(千株)	出資比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	9,123	4.95
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	6,607	3.58
みずほ信託銀行株式会社	5,470	2.96
株式会社りそな銀行	5,342	2.90
株式会社みずほコーポレート銀行	5,310	2.88
ステートストリートバンク アンド トラスト カンパニー-505019	5,041	2.73
日本生命保険相互会社	3,866	2.09

(注) 当社は、自己株式15,319千株を保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。

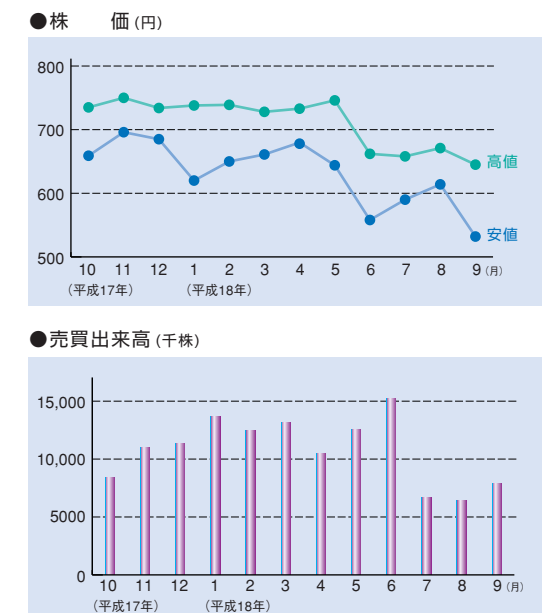
## 所有者別株式分布状況



## 1株当たり配当金推移



## 株価・株式売買高の推移 (東京証券取引所)



当社の概要		
社名	株式会社淀川製鋼所	
設立	昭和10年1月30日	
資本金	23,220,815,228円	
従業員数	1,365名	

当社の主な事業所		
本社	〒541-0054 大阪市中央区南本町四丁目1番1号 06-6245-1111	
支社	〒104-0041 東京都中央区新富一丁目3番7号 03-3551-1171	
営業所	札幌、盛岡、仙台、新潟、長野、高崎 東京統括、横浜、静岡、北陸、名古屋統括 大阪、神戸、岡山、福山、広島 高松、高知、八幡、福岡統括、鹿児島	
工場	大阪(大阪府)、呉(広島県) 市川(千葉県)、福井(福井県) 泉大津(大阪府)	

当社の主な関係会社		
●連結子会社		
高田鋼材工業株式会社	鋼板の加工および販売	
盛餘股份有限公司 (セニュースチール社)	鉄鋼製品の製造および販売	
白洋産業株式会社	鉄鋼卸業、運送業	
京葉鐵鋼埠頭株式会社	倉庫業	
ヨドコウ興発株式会社	ゴルフ場等経営および不動産賃貸	
●持分法適用関連会社		
株式会社佐渡島	鉄鋼卸業	

当社の役員		
取締役 執行役員		
代表取締役会長	鈴木 鐸志	
代表取締役社長	國保 善次	
代表取締役	専務執行役員	重廣 紀義
取締役	常務執行役員	寺田 剛尚
取締役	常務執行役員	辻 克己
取締役		坂元 良章
	常務執行役員	河本 光弘
	上席執行役員	大森 眞
	上席執行役員	遠山 巽
	上席執行役員	阪口 修司
	上席執行役員	大森 豊実
	上席執行役員	西村 修
	上席執行役員	河本 隆明
	執行役員	向井 信正
※坂元良章氏は会社法に定める社外取締役です。		
監査役		
常勤監査役	今村 靖雄	
常勤監査役	天谷 薫	
監査役	川西 淳一郎	
監査役	今西 康訓	
※川西淳一郎および今西康訓の両氏は会社法に定める社外監査役です。		

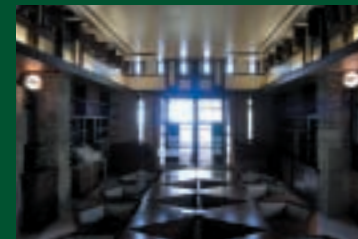
重要文化財  
ヨドコウ迎賓館のご案内  
旧山邑家住宅

F・Lライトとヨドコウ迎賓館



設計者/フランク・ロイド・ライト

淀川製鋼所が保有し、管理を行う国の重要文化財、ヨドコウ迎賓館は、20世紀のアメリカが生んだ建築の巨匠であり、帝国ホテルの設計者として日本でも名高いフランク・ロイド・ライト(Frank Lloyd Wright, 1867-1959)によるものです。1918年に、F・Lライトが灘の酒造家8代目 山邑太左衛門の依頼を受け、別邸として設計し、1924年に彼の弟子である遠藤 新(えんどう あらた)、南 信(みなみ まこと)らによって建設されました。淀川製鋼所ではこの希有な歴史的建築物を有料で一般公開しておりますが、株主様に限り、期間限定で入館料を無料とさせていただきます。ご関心のある方は、ぜひ一度足をお運び下さい。



2階応接室

雛人形の逸品を展示

京都の老舗人形店「丸平」三代目大木平蔵が明治33年から2年間の歳月をかけて制作した29体の人形たち。優雅な顔立ち、豪華な衣装、細部にこだわった調度品などが、100年以上の歳月を経た今も、時代を超えた美しさを備えています。

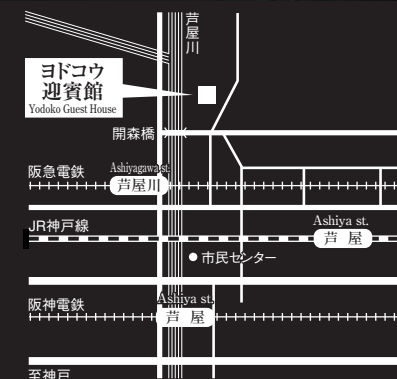


特別展示開催 平成19年2月17日(土)~4月15日(日)  
人形展開催期間中/月・木のみ休館

所在地 芦屋市山手町3-10  
所有者 (株) 淀川製鋼所  
設計者 フランク・ロイド・ライト(1867~1959)  
構造 鉄筋コンクリート造  
規模 敷地面積 4,700m<sup>2</sup>  
建築面積 359.1m<sup>2</sup>  
竣工年 大正13年(1924)  
備考 昭和49年国指定重要文化財  
URL <http://www.yodoko.co.jp/geihinkan/>

開館ご案内  
開館日 毎土・日・水曜日と祝日  
開館時間 10時~16時(入館は15時30分まで)  
入館料 大人・大学生は500円  
団体/400円(30名以上)  
小・中・高校生/200円  
団体/100円(30名以上)

申し込み・問い合わせ  
淀川製鋼所 広報課 06-6245-9103  
ヨドコウ迎賓館 0797-38-1720



■阪急芦屋川駅下車北へ徒歩10分

『ヨドコウ迎賓館』  
株主様入館無料券

本券1枚につき、3名様まで無料でご入館いただけます。

平成19年6月末日まで有効